

二人して桜の下で眠りたし

崎の淵には隠れ家一つ

令和六年四月七日

幻想小説家クラブ 大中臣正比呂



今日は花見だ！ 美女達に声を掛けて、都営浅草線で浅草に直行した。

向島の崎で急に曲がる隅田川の箇所には、情念が渦巻く深い淵があり、そこは昔から男女の仲を暗示する場所である。そこに隠れ家が欲しい。

花見の桜は背景であり、主役は、長唄「元禄花見踊り」の通り、

美女を見るためにある。陽は暑く、二花は満開である。